第 30 回 あすなろ夢建築

大阪府公共建築設計コンクール

入選作品集

テーマ　緑陰で憩う

課　題　大阪府営服部緑地内に立地する休憩所

主　催　大阪府　公益社団法人 大阪府建築士会　大阪府住宅供給公社

後　援　大阪府教育庁　一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会

協　賛　一般社団法人 日本建築協会
一般社団法人 大阪府建築士事務所協会
公益社団法人 日本建築家協会近畿支部大阪地域会
一般財団法人 大阪建築防災センター
一般財団法人 日本建築総合試験所
一般社団法人 公共建築協会
公益社団法人 日本建築積算協会関西支部
公益財団法人 建築技術教育普及センター近畿支部

「あすなろ夢建築」大阪府公共建築設計コンクール事務局
大阪府住宅まちづくり部公共建築室計画課
〒559－8555　大阪市住之江区南港北１－14－16
TEL:06－6941－0351(代表)　令和3年3月発行

コンクール概要

このコンクールは、小規模な公共建築物を題材とした実践教育の場を提供することにより、将来の建築技術者の育成を図るとともに永く府民に愛され親しまれる公共建築づくりを推進することを目的として、大阪府内に所在する建築関連学科のある工業高校や専修学校等に在籍する学生・生徒から提案を募集し、グランプリに選定された作品の提案趣旨を活かして事業化を行うものです。

テーマ

緑陰で憩う

課　題

大阪府営服部緑地内に立地する休憩所

主な設計条件

［所　在　地］豊中市服部緑地 1-1
［計画地面積］約　2700　㎡
［建 築 面 積］25 ㎡～ 100 ㎡程度
［構　　造］木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造 等
［規　　模］平屋建て

作品受付期間

令和３年１月６日（水）　～　令和３年１月 13 日（水）

応募状況

［応 募 校 数］15 校
［応募作品数］242 点 (うち　第１部 80 点、第２部 162 点)
［応 募 者 数］261 人 (うち　第１部 85 人、第２部 176 人)

第１部	
大阪市立都島工業高等学校	大阪市立都島第二工業高等学校
大阪市立工芸高等学校	大阪府立今宮工科高等学校
大阪府立西野田工科高等学校	堺市立堺高等学校
堺市立堺高等学校定時制課程	
第２部	
大阪建設専門学校	大阪工業技術専門学校
大阪府立北大阪高等職業技術専門校	大阪府立大学工業高等専門学校
近畿職業能力開発大学校	修成建設専門学校
中央工学校 OSAKA	日本理工情報専門学校

応募資格

大阪府内に所在する学校のうち、学校教育法の規定による工業高等学校（工科高等学校）・短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校及び、職業能力開発促進法に基づく高等職業技術専門校の建築関連学科に在籍する学生・生徒であり、個人又は３名以下のグループでの応募とした。

募集区分

［第１部］工業高等学校（工科高等学校）に在籍する生徒
［第２部］短期大学・工業高等専門学校・専修学校・各種学校・高等職業技術専門校に在籍する学生

入選作品と賞

グランプリ１点、準グランプリ１点、優秀作品賞２点、佳作３点、奨励賞３点の計 10 点を入選作品として選出。ただし、第１部と第２部からそれぞれ２点以上の入選作品を選出することとした。

作品展示

［場所及び期間］
大阪府咲洲庁舎 (さきしまコスモタワー) ２階エントラスホール
令和３年２月 24 日（水）から令和３年３月 24 日（水）まで

審査会会場

審査の様子

審査委員

［審査委員長］
岩田　章吾
（武庫川女子大学短期大学部生活造形学科教授）

［審査委員］
下村　泰彦
（大阪府立大学大学院
人間社会システム科学研究科教授）

角田　暁治
（京都工芸繊維大学 デザイン・建築学課程准教授）

堀部　直子
（株式会社　Horibe Associates）

村田　勝博
（大阪府都市整備部都市計画室公園課長）

寺本　武司
（大阪府住宅まちづくり部公共建築室長）

総　評

本年度も多数の魅力的な応募をいただきました。高校生の部である第 *1* 部と専修生等の部である第 *2* 部のそれぞれから多数の応募があったことは喜ばしい限りです。本コンクールの価値が広く知られた証であると思います。本年は昨年に引き続き、公園内に人々が集い、交流する場の提案を求めるもので、周辺の利用状況などをどのように読み解くかも、昨年同様に評価のポイントとしました。多くの提案がしっかりとリサーチを行ったうえで提案をしてくれた点とても喜ばしく思います。かなり自由度の高い課題でしたので、ユニークな形のもの、美しい形のものも多かったですが、入選した作品は、いずれも、そこで人が楽しく過ごすことがたやすくイメージできるもの、従来とは異なる新しい公園の休憩所の可能性を垣間見せてくれるものでした。

当設計競技は、実施を前提としています。そのため、コストや安全性、維持管理の容易さなどが審査の要因となります。しかし、同時にそのことが、自由でのびやかな発想を妨げることがあってはならないとも考えています。新しい価値を生み出す自由で豊かな発想を、いかに実現可能なものとするか、その点にしっかりと取り組んでほしいと思います。難しいコンペですが、皆さんの一層の頑張りに期待します。

最後になりますが、本紙面を拝借して、入賞された皆様へのお祝いと、このコンクールに作品を提出された皆様、そしてそのご指導に当たられた先生方のご努力に対する御礼を申し上げます。

グランプリ　宇都宮（うつのみや）　壱彩（いっさ）

CLT による逆三角形の壁を十字型に組んだ柱が林立する建築的チャレンジが光る作品である。トップライトが配された内部空間は、視線の抜けと回遊性が両立されており、その形態は *CLT* という新技術を採用していることも含めて公園のシンボルとなりうる。実施に向けては、様々な検討事項があるが、構造的、工法的検討と、配置計画、現行案はトイレと近すぎる、の再検討は特に重要と考える。

優秀作品賞　温川（おんかわ）　蛍里（ほとり）

円形を使い、柔らかさを感じさせるデザインである。子供が遊ぶスペースや自転車置き場など細かい配慮もなされている。作者のセンスが感じられる洗練されたデザインが魅力であるが、2mを超える壁が沿道からの死角を作り出している点が防犯的な懸念点となった。

佳作　佐々木（ささき）　優衣（ゆい）

大断面のフレームと細い木の捩じれた格子を組み合わせた不整形な形はユーモラスであり、森の中に少し不思議な、それでいて居心地の良い空間を作り出している。様々な材料を駆使した音や光を取り入れる工夫や、耐候性を考慮した樹種の選択などの取り組みに好感を持った。

佳作　新美（にいみ）　紗代子（さよこ）

敷地の形状だけでなく、人の流れや、利用状況など現状の課題を丁寧に分析したうえで、快適な利用形態だけでなく管理維持やリサイクルまでを視野においた多様な提案を行う姿勢に好感が持てた。

奨励賞　松井（まつい）　大樹（たいき）

ステンレスの支柱に、森の落ち葉が蓄積し、自然物と人工物が融合したような新しい建築の在り方は、その美しいと相まって、魅力的である。落ち葉の季節以外の見え方や、雨水に対する配慮などがあればさらに良かった。

準グランプリ　菊地（きくち）　昂哉（たかや）

最後までグランプリと競り合った案である。計画地を丁寧に調査分析した優れた提案である。敷地を大きくとらえ、スポーツ広場と山ヶ池それぞれに向かった二つの休憩所を地形の起伏や樹木の状況から空間を無理なく魅力的な空間を導き出している。高低差を生かしながらもユニバーサルデザインへの配慮もなされているきわめてバランスの取れた案である。二つの休憩所の屋根と森のなかに設けられた通路にもう少し魅力や工夫があればと思う。

優秀作品賞　矢野（やの）　蒼依（あおい）

公園のシンボルとなりうるアートのような美しい作品である。その優美な曲線は、有機的な森の風景と一体となって魅力的な風景を作り出すことが期待できる。ただ、そのあまりに美的な形態は公園休憩所としての多様な利用という観点からは制限的である。また、木造での実現可能性が懸念点となった。

佳作　池本（いけもと）　成貴（なるき）

丸鋼を組み合わせ複雑な屋根を構成しているアイデアが面白い。いくつものレベルを組み合わせることで、例えば、既存の樹木を伐採せずに屋根の広がりを生み出す、環境彫刻のような休憩所が可能であろう。雨水利用やコンポストの提案など、環境に配慮した提案である点も評価できる。

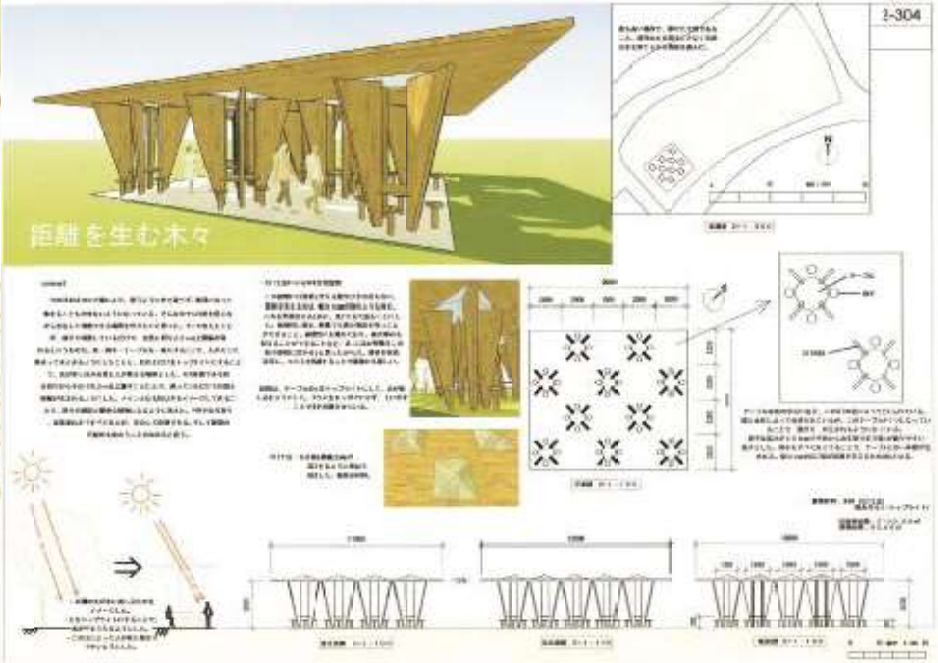
奨励賞　岡﨑（おかざき）　春菜（はるな）

山ヶ池に開かれた舞台のような休憩所で、パフォーマンスなど様々なアクティビティでの活用が期待できる。トレリスのドームが美しく、夜間のライトアップされた景観も魅力的である。

奨励賞　早坂（はやさか）　柊人（しゅうと）・松下（まつした）　颯汰（そうた）

線材、面材ではなく、量塊としての木を感じさせる提案でそのユニークかつシンボリックな形が魅力的ある。内部の求心的な空間と外側の周囲に広がる空間の対比が面白い。３mを超える壁によって内部空間が死角となる点が懸念点となった。

グランプリ・準グランプリ・優秀作品賞



グランプリ

宇都宮（うつのみや）　壱彩（いっさ）

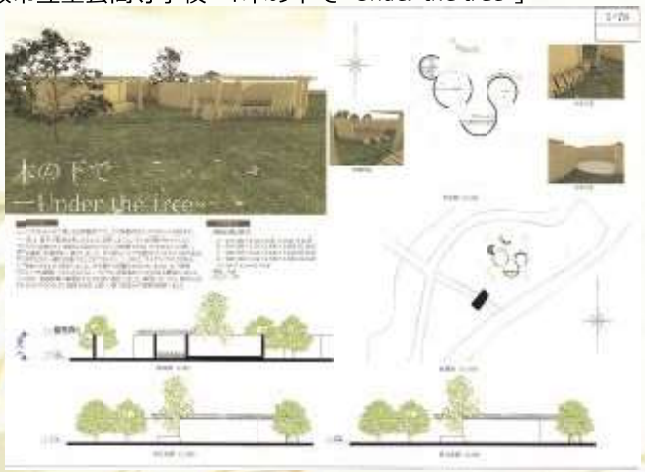
修成建設専門学校

「距離を生む木々」

今の日本はコロナ禍により、思うように外で遊べず、集団になって集まることも出来ないようになっている。そんな中でも自然を感じながら安心して休憩できる場所を作りたいと思った。そこで考えたことが、椅子で休憩しているだけで、自然に周りと 2m 以上間隔が取れるというものだ。柱・椅子・テーブルを一体にすることで、人がそこに集まってまとまるようにしたことと、柱の上だけをトップライトにすることで、光が差し込み自然と人が集まる場所とした。その休憩できる柱を周りからそれぞれ 2m 以上離すことにより、座っているだけで自然と距離が生まれるようにした。メインとなる柱は木をイメージして作ることで、周りの風景と馴染む建物になるように考えた。子供やお年寄り、家族連れまですべての人が、安心して休憩できる。そして建築の可能性も味わうことが出来ると思う。

優秀作品賞　温川（おんかわ）　蛍里（ほとり）　大阪市立工芸高等学校　「木の下で *-Under the tree-*」

コンセプトはみんなで楽しめる休憩所です。この休憩所は 3 つのポイントがあります。一つ目は、親子が散歩を楽しめるように設計しました。やっぱり親がゆっくりしたくても子どもは遊びたい気持ちがあるのでゆっくり休憩できないのではないかと思い、遊べる場所と休憩所を一緒にしました。目の前にベンチを設けているので子供の安全を見守りながら一緒に休憩することができます。二つ目は、サイクリングの方が安心して休憩できるように設計しました。目を離すと盗難されるかもしれないという気持ちを少しでも軽減してもらえるように、ベンチに自転車をひっかけれる構造にしました。三つ目は、楽器演奏の練習をする方を思い設計しました。練習したいけど、周りから見られながらするのは少し抵抗があると思い壁で囲まれた空間を設計しました。



準グランプリ　菊地（きくち）　昂哉（たかや）

大阪工業技術専門学校「木漏れ日」

服部緑地はたくさんの自然があり、様々な年齢の人達に利用されている公園なので、多くの人が親しみやすく周辺との調和を図るために既存の物を傷つけないように設計した。敷地内の木と木の間には様々な領域が生まれており、その領域に沿って一辺 1,200 と 2,000 の線でデッキを計画した。建築物①の一辺 1,200 はパーソナルスペースの固体距離の最大限の幅をとっている。建築物①はスポーツ広場に面しており、樹木の密度も薄く、人と人の距離感が近いと考え固体距離を採用した。建築物②の一辺 2,000 はパーソナルスペースの社会距離の約中間をとっている。建築物②は池側に面しており、樹木の密度が濃く、樹木が薄い壁となり読書をするなど一人の空間になりやすいと考え、社会距離を採用した。（一部抜粋）

優秀作品賞　矢野（やの）　蒼依（あおい）

大阪工業技術専門学校「*Blend*」

現地は豊かな緑と大きな池が印象的だった。よって木と水をキーワードにしてデザインした。周辺にあるマツやサクラを少し伐採し、それらの一部を休憩所に利用した。伐採することで、設置場所の確保ができるだけでなく、休憩所からの景色が楽しめる。敷地内の木のチップの道沿いに設置することで、歩いている途中で立ち寄ることができるため利用率が高くなると考える。段差は小さくして一息つきたいときに気軽に利用できるようにした。大きな壁は存在感を持たせ休憩所の存在に気づきやすくすることとライトを埋め込み夜間でも安心して利用できるようにする役割を果たす。

佳作・奨励賞

佐々木（ささき）　優衣（ゆい）

大阪市立工芸高等学校「五感で楽しむ。」

大きな柱と柱の間を壁で覆わず細い木で挟むことにより外との繋がりを感じることができます。また、間に挟んだ細い木をねじらせて曲線美をつくり緑陰からきこえる鳥のさえずりや葉擦れのような癒しの"音"に調和できるようにしました。屋根は高低差を出し、素材も程よい自然光が入るようにテント生地になっています。このようにして緑陰の心地よい空間を五感で楽しめるような休憩所を計画しました

休憩所の真ん中には椅子などをあまり設けず、通り抜けやすくなっており、段差のないウッドデッキを設置することにより車椅子での利用がしやすくなっています。スポーツ広場からきこえる子どもたちの声をカラフルな色使いとオノマトペの形で表現しました。

池本（いけもと）　成貴（なるき）

大阪工業技術専門学校「変幻」

正方形ではなく長方形を９つ重ね、すべて規則的にかつ不規則に見えるようにずらし一つの構造物を創った。一見、角が多く威圧的に見えるが葉の重なりをイメージしており、ずれた部分から木が生え人工物であるのを強調しつつも調和を図っている。ずれから生まれたスペースはベンチにもなり花壇にもなった。木が陰となり 100mm の丸鋼がそれを助ける形で心地よい日陰になり目を上げれば木々の葉と青空が見える。この敷地には、運動をする人、親子、老夫婦など幅広い世代の方々が通る場所だ、なのでできるだけ入りやすく木々が少なく建設しやすい東側の敷地にした。この敷地は開放的なため自由な空間だったが，自由すぎるがゆえに目的を失っていた、そこでエリアを線で区切ることによって開放性を失わずに目的を与えることができた。段差はできるだけ少なくし四つのエリアは芝生にして「座る」、真ん中をベンチにして「座る」それぞれ違う憩いの場にしようと考えた。

新美（にいみ）　紗代子（さよこ）

北大阪高等職業技術専門校

「緑陰でひとやすみ」

この緑陰を見つけたら、通りかかった人たちが、ふと足をとめ、緑陰を感じながら、ひとやすみしたくなる。豊かな樹々と共に誰もが安心、安全、快適に使いやすいと思える憩いの場を作り出す。

奨励賞　岡﨑（おかざき）　春奈（はるな）

堺市立堺高等学校定時制課程

「緑に抱かれて憩うトレリスの休憩所」

山ヶ池のかたわら、池を見渡せる小高い所に立つクスノキ。このクスノキに抱かれるように、この休憩所は建っています。休憩所は、格子状に組まれた鉄筋：トレリスで作られ、大地から伸びるツタが、ここで憩う人たちを優しく包み込み、クスノキの梢は夏の日差しや雨から守ってくれます。休憩所に誘う緩やかな階段は、大きなベンチとして家族連れに憩いの場を提供してくれます。また、まわりよりも少し高い所にあるこの休憩所は、街のアーティストたちのパフォーマンスの場にもなります。休憩所へは、正面から回り込むスロープと、既存のトイレに向かうスロープを利用してアクセスすることができます。

奨励賞　松井（まつい）　大樹（たいき）

大阪市立都島工業高等学校　「落葉」

『落葉』は木をモチーフにした金属製のオブジェである。あえて金属を素材とし、黄金比を使用したデザインによって、緑あふれる公園との調和を意識した。落ち葉が板上に溜まることで、木漏れ日を演出する。板上のメンテナンスのため、開口部を設け、板上の堆積物を落とすことができるようにした。

奨励賞　早坂（はやさか）　柊人（しゅうと）・松下（まつした）　颯汰（そうた）

大阪市立工芸高等学校「円・緑 の広がり」

この休憩所は公園で遊んでいるこどもやランニングなどでからだを動かしている人、お年寄りを対象にした設計です。つい長居したくなるような椅子を設計しソーシャルディスタンスを保つため柱で十分な間隔をとりました。より快適に休憩をとってもらうため、屋根を深くしました。既存の木を間伐し、間伐材のチップで道を整備します。外側では十分にリラックスしてもらうため腰が深い位置で座れるようし、公園を見ながら休憩できるようにしました。